



附属書 2

附属書 2

公的部門における AI ツールキット

AI は、法の支配、民主主義、人権と基本的自由、特にプライバシー権を尊重し、個人データと知的財産を保護する方法で、AI システムを安全、安心で、信頼できる形で開発、導入、使用することを求める重大な変革を引き起こす。

公的部門における AI の活用は、より包括的で個別化された公共サービスの設計と提供を改善し、説明責任と透明性を促進することによって、政府の効率性と運営を強化するために活用することができる。

我々は、公的部門における AI システムの安全、安心かつ信頼できる開発、導入及び利用は、政府の意思決定及び行動を通知又は実行するために AI を利用することから生じるリスクに対処しつつ、その利益を活用するために必要なインフラ及び適切に訓練された人的資本の両方から恩恵を受けることを認める。

このことは、そのような利用が個人の権利や安全に影響を与える可能性がある場合には、特に重要である。我々はさらに、公的部門の限られた資源、質の高いデータを含むデータへのアクセスの欠如、不十分な訓練に関連する課題や、透明性、説明可能性、再現性、頑健性、説明責任といった AI システムの特徴の欠如の可能性に取り組む必要性を認める。

我々は、イタリア議長国によって提案されたように、政府がリスクと機会をマッピングし、公的部門における安全、安心、信頼できる AI のためのオープンで実現可能な環境を支援できるツールキットの開発を期待する。OECD、ユネスコ、GPAI などの国際機関やイニシアティブの既存の活動を基礎とし、それらを統合したツールキットは、政府が公的部門における特定の領域で AI を利用することの妥当性を評価し、望ましい効果を実現するのに貢献すべきである。その結果、ツールキットは、安全、安心、信頼できる AI のための原則を、実行可能な政策に反映するのに役立つはずである。

また、ユースケースや具体的な実践例を活用することで、ツールキットは以下のような有用な指針を提供すべきである：

- 公的部門において、領域固有の結果、サービス、アプリケーションを提供するために AI を開発または使用することの妥当性を評価すること。

- 公的部門における AI の安全、安心、信頼できる開発、導入、利用を確保するために必要なスキル、適性、職業プロファイルを特定すること。
- 公的部門における AI の安全、安心、信頼できる開発、導入、利用を導き、調整するために必要と思われる政策の概要を提供する。

